



ひびりんが触手退治で
返り討ちにされ**徹底的に種付**されちゃう！

私は聖白蓮ひしひやくれんの魔法使いですが、僧侶としての修行を積んでいます

人妖が平和に暮らせる世の中にするべく日夜努力を重ねているのですが、まあ今はそういう堅苦しい話は置いといてですね！

最近はおんななれ、この愛車に跨り入れたこと、このパトロールに、幻想郷の私が、中々に、おもしろい、なっています！



聖様あまり
危険なことは
控えた方が：

聖、止めは
しませんか
早く帰ってき
てくださいね

平気平気、
なんたって姐さんは
私らの誰よりも
強いんですよ！

悪い奴なんか
懲らしめちゃえ！

ええ、心配は
いららないわ

皆が安心して
生活できるよう
するの私の
勤めですから

*



そして今回私は
巷を騒がす、
とある悪い妖怪を
追い詰めることに
成功したのです！

悪い子は
一刻も早く懲らしめ
改心させなくては！

ダ
オ
ン
ッ

それじゃ、
行ってくるわね！

！そうやって私は
いつものように
飛び出したので
行つたのです



件の妖怪を見つけたらと
私はずぐさま得意の
肉体強化系の魔法を使い
掴みかかりました

幻想郷の平穩を
乱すのも
私が来たからには
ここまでですっ！

女性ばかりを
狙った犯行、
誠に卑劣で、
悪逆非道であるッ！

Ah♡

いざ、南無三——！

Ah♡

身体がじわじわと熱く、
敏感になつていたのも
単に戦闘の興奮からだ
と思つていました

んうっ!?

くううっ!?

ようやく違和感を覚えたのは、
不意に胸を揉まれただけで
身体のコントロールが
効かなくなるほどの衝撃が
背すじに走つた時です



な、何です、
今の…っ!!

…くっ、さっきから
何を人の胸で
遊んでいるのですっ

キッ

ふざけるのも
いい加減にして
ください!

モミ

モミ

モミ

私は戸惑いつつも
戦闘を継続しようと
しました



しかし

んうううっ!?

ビュ

ビュ

ビュ

ビュ

ビュ

押し抜けられた胸の谷間に、新たな触手がねじ込まれた時に走った衝撃は先ほどのものより更に強烈でした

そしてそのまま、
そいつは触手を
上下に激しく……っ

なっ、あなた……っ！

いけませんっ！
そこは子を育むための
神聖な……っ！

そっ、そもそも
僧侶をそういう
対象としては……っ！

あっ!!

本能的にそれが何か
いやらしい行為であると
察した私は、僧侶である自分が
そういう対象とされるなど
夢にも思っていないからため
酷く混乱しました





私がそう言ったところで
妖怪が行為をやめる
筈ありません

んっ、くうっ!

んっ!

ズッ
ふううっ!?

ただでさえ昂っていたのに
肌の敏感な所へ粘液を
力強く擦り込まれ、
私の中へも言われぬ感覚は
ますます大きくなつていきます

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ

さらにそいつの狼藉は
それだけに留まらず！

びびっ

ブツッ

どっ、どこかに
入って…っ！

えっ、あっ?!
ちよっどっ！

ブツッ
ズル

ズルズルッ

やめ…っ！

ズル
ズル

ズル…

ズル
ズル

もぞ
もぞ



だ、ダメっ、
そんな…っ！

ああああっ!!?

複数の触手が根元から
分離して服の間へ
潜り込んできたのです

それを妨害しようにも
上半身の攻防で手一杯で
私は次々と侵入を
許してしまいました…

ズルルルル

ズルルルル

ズルルル

ズルルル

ズルルル





服の中に潜り込んだをいつは 恐るべき行動に出ました

...うっ、ああっ

あっ

そん、なっ!?

あっ!?

ブル
ブル

ブル
ブル

ブル

ブル

ミッ

ミッ

ミッ

くらっ

くらっ

くらっ



それは、服の裏地との同化...

ぐっ

ううっ!

か、身体の自由が効かな...っ!

くううっ!

それに、より触手は私の全身に密着し、私の腕力では強化魔法の恩恵があつて、すくなくとも、しなないほど拘束が強固になっていました

でも、何より恐ろしいのは...

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ブルブル

ギョッ

ブル

ブル

ブル

ブル



ただでさえ自由が効かないのに、
こんなことまでされたら……っ!!

んうっ!!

んうううっ!!

そんな密着した状態で
触手が更に執ように身体を
愛撫してくるとのこと……っ

んうううっ!!

んうっ

んうっ

んうっ

グッ

グッ

グッ

グッ

んうっ

んっ!
くうっ!

くううっ!

いけないっ、
こんなことで
感じてしまっではっ!

そう思って堪えようと
するのですが、
隅々まで弄られ身体が
勝手に反応してしまいます

恥ずかしいっ!

んんんんっ!



くっ、こ、こうやって
人々を襲って
いたのですね…っ！

プルプル

プル
プル

プル

ふうっ!?

しゅわ
しゅわ

ゆっ、許せませんっ、
こんなは、
破廉恥な…っ！

モッ

モッ
モッ

モッ
モッ

うっ！

しゅわ

プル

絶対っ、
私が…っ！

プル
プル

MC
MC

しゅわ

しゅわ

MC

MC
MC

しゅわ

しゅわ



しかし妖怪の魔の手は私の... 秘所にまで押し寄せました...

んあああつ!!

っ!!

粘液にまみれた触手に割れ目に沿って愛撫された瞬間、全身に浅ましい快感が弾けてしまいます...

ビクビク

ビクビク

ビク

ガク

ガクガク

ガク

グハ

グハ

…んっ！

んんっ！

全く予想だにしてい
なかつた触手の攻勢に、
私の意識は完全に貞操を守る
ことだけに集中していました

そ、それ以上は…っ
絶対に…っ！

そうしている間にも
触手は私の服との同化を進め、
どんどん取り返しのつかない
事態が進行していったのにも
関わらず…

んんっ！

ブル
ブル

ブル
ブル

ぐちゃ
ぐちゃ

ブル

ブル
ブル

ぐちゃ
ぐちゃ

ぐちゃ
ぐちゃ

ブル
ブル

ぐちゃ
ぐちゃ

ぐちゃ
ぐちゃ



そんな攻防を
続けた数時間後……

……うっ、
はあ
ブル
ブル

ブル
ブル

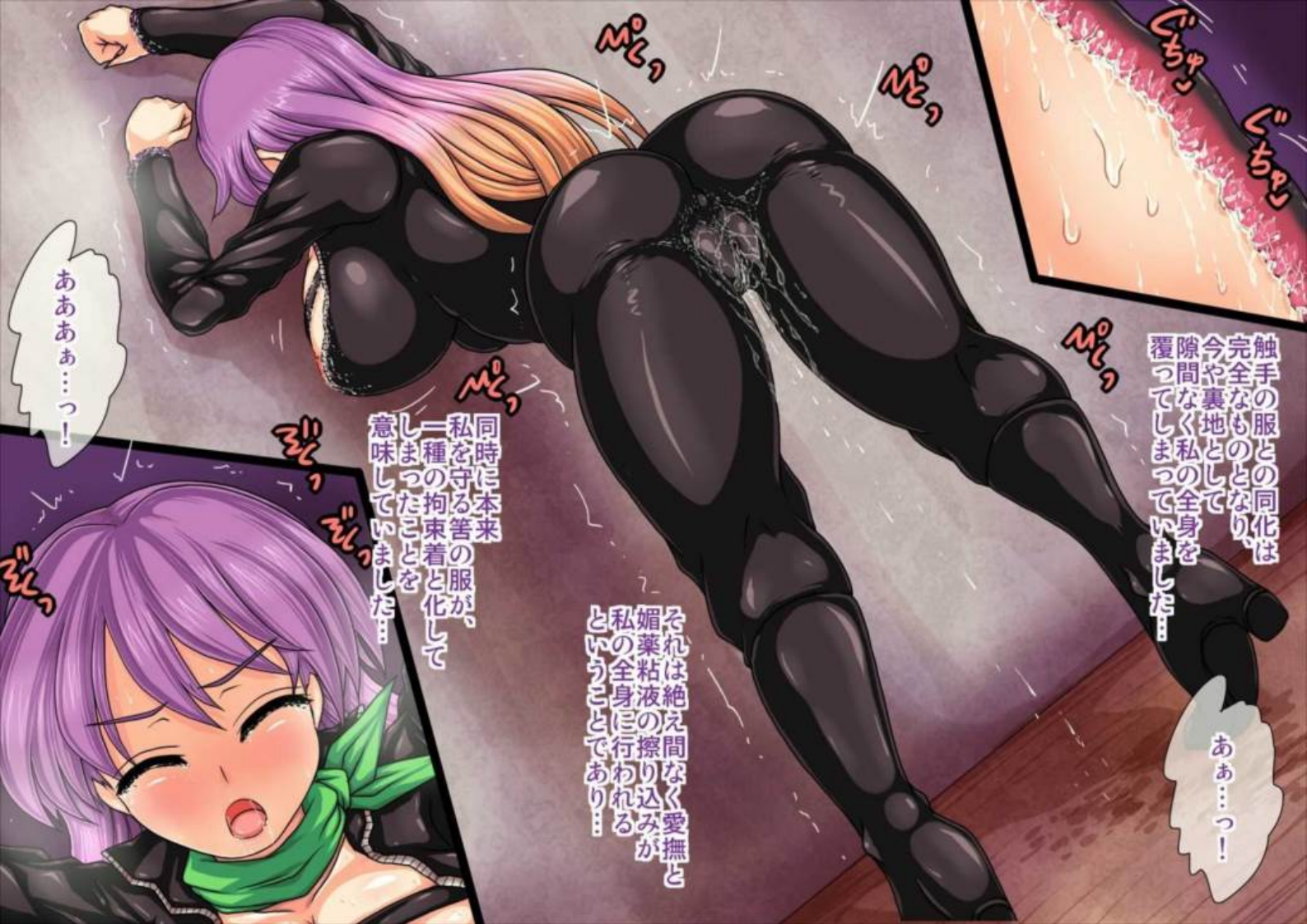
ブル
ブル

ブル

あ……あ……っ、
あ……あ……っ、

あ……あ……っ、
あ……あ……っ、
あ……あ……っ、





ああああ……っ！

触手の服との同化は
完全なものとなり
今や裏地として
隙間なく私の全身を
覆ってしまっていました！

ああ……っ！

それは絶え間なく愛撫と
媚薬粘液の擦り込みが
私の全身に行われる
ということであり……

同時に本来
私を守る筈の服が、
一種の拘束着と化して
しまったことを
意味していました……

ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ



身じろぎするだけで擦る
裏地の触手が肌を擦る
快感に耐えなければ
ならないのは勿論のこと！

うっ、
あぁっ！

そんなっ、
揉まないでっ、
くださいっ！っ！

あぁぁっ！

遠目には分からないかも
しれませんが、
服そのものが形を歪め、
常に私の弱い所を
揉みしだいでくるのでっ！





さらに量と激しさを増した媚薬粘液と愛撫に、身体が熱に浮かされ何も考えられないっ！っ！

おまけに達する度私の汁に手が反応し活動を活性化させ



あつ、あつっ！
あああつっ！！

無理っ！
こんなの
耐えられませんっ！

私は周囲に物影も無い
見通しの良い路上にも
関わらず、しやむむに
フアスナーを思い切り
ズリ下げました

が、その時にはもう遅く、
一際大きな快感の波が
全身に弾け…

あああああ
あああつ♡





深夜とは言え天下の往来で
無理やり絶頂を極めさせられ
私は不覚にも放心状態に
なっていました！

…あ、ああ…

あ…!?

今、何か
聞こえ…?!?

そんな私を我に返したのは、
遠くから近づいてくる
殿方たちの話声でした

あ、あっ!?

ブルッ

ブルブル

ブルブル

ブル

びびり

びびり

びびり

びびり

ブル
ブル

こんな時間に、恐らく居酒屋かどこかからの帰り道なのでしよう、こちらへ向かってきます

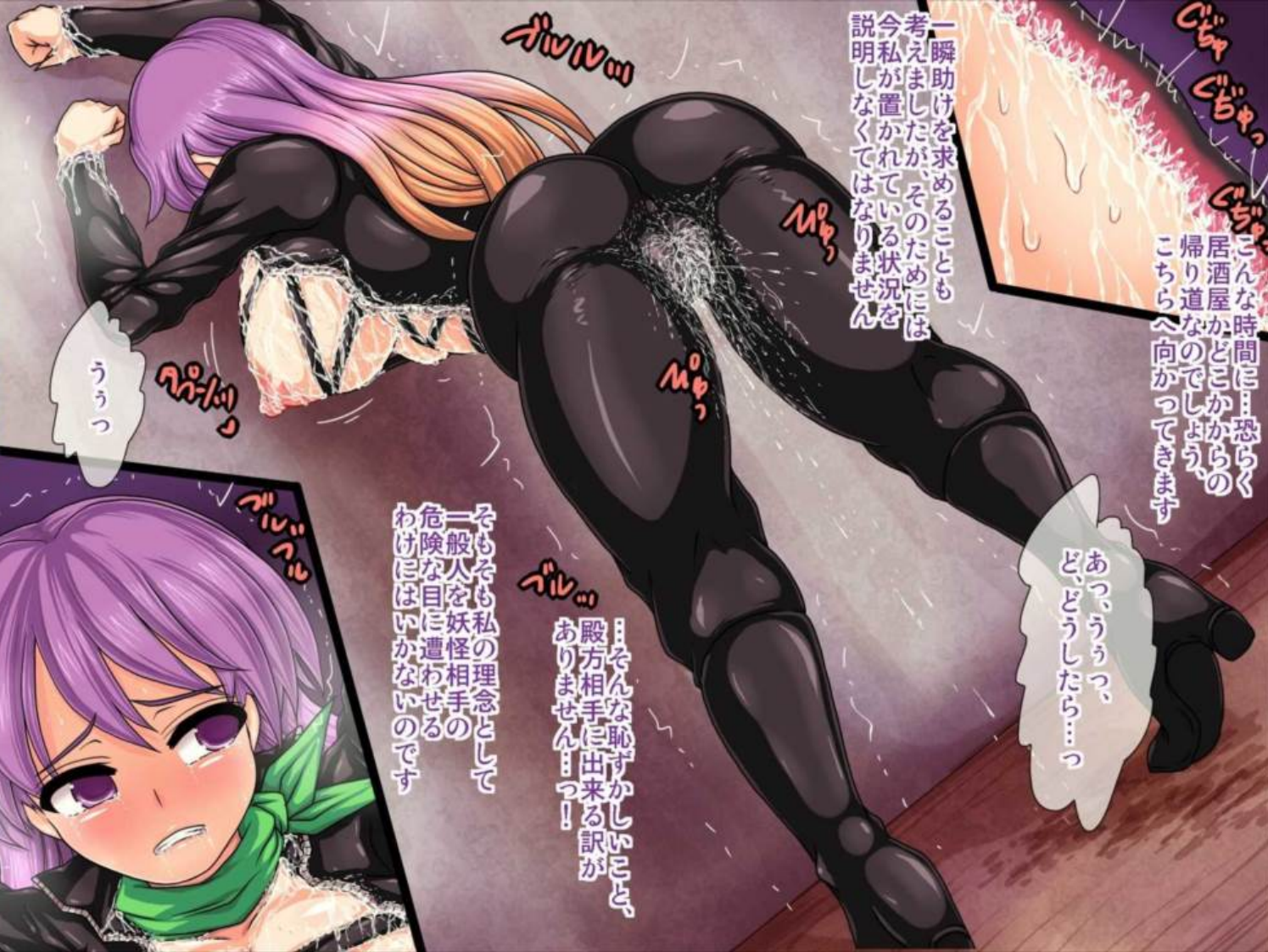
一瞬助けを求めることも考えましたが、そのためは今は私が置かれてる状況を説明しなくてはなりません

あつ、ううっ、ど、どうしたら…っ

…そんな恥ずかしいこと、殿方相手に出来る訳がありません…っ！

そもそも私の理念として、一般人を妖怪相手の危険な目に遭わせるわけにはいかないのです

私は苦渋の決断を迫られました…



ういっ、ひっく
あれ白蓮様じゃ
ないですか

こんな所で
お会いするなんて
奇遇ですねえ

こ、こんばんは
皆さん……っ

今日も相変わらず
美しい、ひっく

や、やめてください
こんなおばあちゃんを
からかうのは……

私は快感に震える手で
もう一度チャックを上げ、
何とか彼らをやりすこす
ことを選びました



あれ白蓮様なんか
オッパイ勃ってません？
ういっ、ひっく

何言ってやがる、あの清楚な
白蓮様がこんな道の真ん中で
乳首おっ勃てる訳ないだろ

痴女じゃ
ねーんだから

幻覚見る程
酒飲んじゃ
駄目だぞ？

ブルブル

だよなあ、
あはは

あ、あはは…

お願い、早く
どこかへ行って…っ！

さっきから私の頭の中は
そのことばっかりで、
会話の中身もろくに
入ってきませんでした

私自身がその場を立ち去ることが
できれば一番良かったのですが、
相変わらず活動が強められている
触手に服の内側で暴れられている今
それは出来そうになかったのです…



ブル

じきん

いっっ

目でも、平静を装うのも
同様に極めて困難なことでした。

?
白蓮様
どうしたんです?

んっ!!

なっ、何でも…っ、
ありません…っ

んんっ!!

んんっ!!

んんっ!!



んんっ!!

んんっ!!

んんっ!!
んんっ!!

んんっ!!
んんっ!!

んんっ!!
んんっ!!

何せ触手は徹底して私を虜り、
感じさせ、イかせようと
してくるのですから…

何だか息が
上がってませんか？

それにそういや
顔も何か
赤いような…

本当に…っ、
何でも
ありませんから…っ

いいえっ

愛撫の刺激をどうにか
逃がすべく、殿方たちに
気付かれないよう
必死で腰を揺ります…





…本当に大丈夫ですか？

何なら医者をお願いしますけど…

ほじくり出された
い、陰核に
巻きつかれてえ…っ!!

あ、アソコが無理やり開かれて…っ!



でもそんな
ささやかな抵抗
本当に殆ど
意味がなくて…

ん、んうっ!

んふうっ!?

だ、だ、だ、
じょうぶ…っ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃ

ぞいぞい

ぞい

ぐちゃ

ぐちゃ



誤魔化すことに気を取られ、
それがおろそかに
なっていたようです...

今までそれだけは
阻止しようと両穴を意識して
締めていたのですが...

んあああああつ!!

びびり

びびりびびり
びびりびびり

何本もの触手が女陰に、
肛門に押し寄せ
潜り込んできて...

大丈夫です、
ああああつ!!?

びびりびびり

白蓮様!?

びびり

びびり

びびり

びびり



おいこれ絶対
白蓮様のおかしいよな？
(ひそひそ)

おう、でも何か
いつも以上に
色っぽくて
目が離せないぜ
(ひそひそ)

あ...っ
あ、ああ...っ。
あ...っ

弄られてしまったら...っ
悟りを目指す僧侶として
決して侵入を許しては
いけない場所を...っ

あ...っ

あ、ああ...っ。
あ...っ



あの、白蓮様
本当に医者呼んで
こなくていいん
ですよね？

はい、はい
私は平気つ、
です、からあつ!!

ああああつ♡

あつ♡

考えてみればこの時、
私の弟子たちを
呼んでくるよう
頼んでいれば
良かったのだと思います

でもその時の私は、
自分が淫らな行為を
させているという事を
殿方たちに勘付かれないよう
その場をやり過ごすことで
頭がいつぱいでした！

え、エロい声
してるぜ…
ごくり

やべえ
勃ってきた



きゅん
きゅん
きゅん

きゅん
きゅん

あつ

あつ

じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ

じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ



だって仕方がないじゃ
ないですか！

自分が股間をほじられ悶え、
身体をくねらせているだなんて...
特に殿方たちには絶対に知られたく
なかったのですから...

ガレ

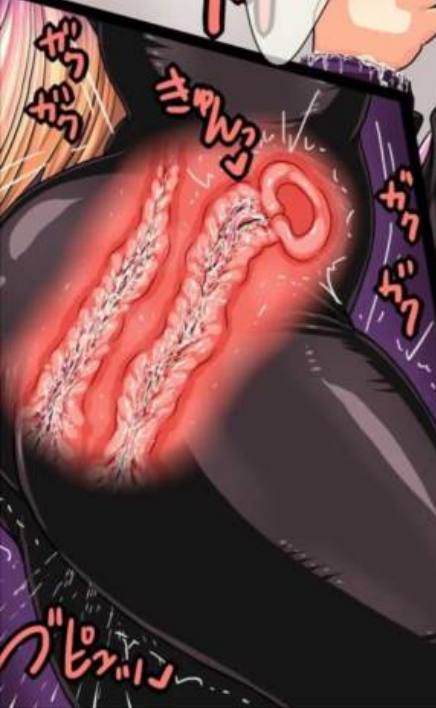
...でも、我慢しようと
すればするほど余計に
自分の中に入った触手の
動きを意識してしまい...

くううううんっ♡

浅ましくも
また気をやる姿を、
私はしっかりと
見られてしまいました...

くっ、うっ♡

ふうふうっ♡



ガレ
ガレ

きんんん

きんんん

ガレ

ガレ

ガレ

グビッ

おい一体
どうしたんだ？

それが
白蓮様によ…

何度も何度もイカされては絶頂し
それでも私は耐えたのですが
やり過ぎずどころか
何だかむしろ人はどんどん
集まってきたようでした

んっ♡
はああああっ♡

ああああああっ♡

このままじゃ持が
明かないと私は意を決し、
自分からその場を
立ち去るうとしたのですが…

うおっ、
見ろよあの
格好！

カッパッ

トロッ

ブルッ

カッ

カッ

カッ

カッ

チッ
チッ

カッ



身体を動かした瞬間全身に走った
あまりの激感に私はへたり込み、
刺激を逃がすべく身体が勝手に動く
のを止めることができませんでした

あああああつ♡

あの白蓮様が
股を開いて…っ！

すげ〜谷間！
挟まれてえ！

じつと耐えていてすら
何度も達するほどの愛撫だったのに、
自分から身体を動かして刺激を受けて、
我慢しきれずはさすが無かったです…

ん、何だ？
何か服が動いて…





い、いやああ
ああああっ
♡

う、うわあっ!!
何だっ!!?

よ、妖怪だ!
妖怪が白蓮様の
服の中に!

よ、様子が
おかしかったのは
このせいだったのか!?

ブツッ
ブツッ
ブツッ

ブツッ
ブツッ

ガッ
ガッ

ガッ

ガッ



まるで今までの快感が
全て一度に押し寄せた
かのように……

今まで必死でこらえていた分、
一度堰を切った快感はとて
止めるなど出来ないものでした

んおっ
おおっ
おおっ

んおっ

そっ、そんなにつ
かき混ぜないでっ

おほおっ

ぐちゃぐちゃ

びしょ

びしょ

びしょ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃぐちゃ



た、助け
ないと...っ

で、でもよ
妖怪相手に
どうやって...

ふあっ、あっ、
ああっ

目いけな...
このままじゃ
この妖怪が
皆さんに危害を
加えてしまうっ

あああっ♡

人と妖怪の平和な共存を
夢みる私にとって、それだけは
絶対に避けたいといけな...っ

今は情けなく悶えてる
場合じゃないっ！

もう恥ずかしいなんて
言ってられない！っ

ふっくうっ♡

ふううっ♡

うおおっ!!

びや、白蓮様の
生乳…っ!

で、でええっ!

私は少しでも刺激を
外に逃がすため
思い切りチャックを下まで
ずり下げました

あんなだけでかくて
まだ服で押さえ
込んだたのかよ!

乳輪から乳首まで
ぶっくりと
膨らんで…っ!

なんていやらしい
形してやがる!

これで
僧侶だなんて
信じられねえ!

これで動ける
くらいには、
マシン…っ







何とかあのあまりにも
恥ずかしすぎる場から
逃げ出すことには
成功したものの...

あああ...っ♡

...ん、ああっ♡

ひ、ひやめええ...っ♡

あっ♡

何せろくに考える余裕も無く
魔法を使つたせいで
飛んだ先は人っ子一人いない
町はすれだつたのです

事態は好転したとは
とても言えず
むしろ悪化してしまつた
ように思えました

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



あぁっ♡
あぁっ♡
あぁっ♡

しかもしばらくの間
中を弄られ続け、
私はすっかり
自分ですら知らない
自分の弱点を
相手に知り尽くされて
しまったようでした！

触手が女陰や肛門の中で
襲に沿って何やら蠢くと、
それだけでもう全身から
力が抜けてまともに
動けなくなるのです…っ

あぁっ♡

ひぁあぁっ♡

あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡ あぁっ♡



おまけに最大の弱点が
まだ別にあるのです

んんんんん

それがこの
皮を剥かれ
勃起した陰核...

ココをこうして
回を作った触手
包み込むようにして
愛撫されると

ひいっ
ふひいっ

ちゅぽん

ひいっ
ふひいっ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



おっおっ

んほおおっ

おっ、お許しっ
くださひいっ

身体どころか頭まで
まともにも動けなくなり、
たまたまひたすら刺激を逃がす
ため腰を振るしか出来なく
なつてしまふのです

私に、こんなに沢山
弱点があつたなんて...



そしてどんなに
懇願したところで
それらの責めを触手が
やめてくれる訳も無く...

ほんおっ
おおっ
おおっ

おおおっ
おおおっ
おおおっ

むしろ私の反応に
気を良くしたように
弱い所をじつこく
何度も何度も...



私は流されそうになる
自分を叱咤し、
あくまで抵抗する
意思を固めました

んほおおっ♡

わ、わらっ、
ひっ♡

そう、りよっ♡
なんらからあっ♡

こんなの…っ♡

負けっ、
なひいっ♡

ほおおおっ♡

ただそれはいつまでも
続く快樂をただひたすら
耐え続けるじかないう
随分と分の悪い戦いでした





気が付いた時
私は以前までいた所とは
全く違った場所にいました

ううん...?

...うっ

しゅ

まさか触手の巣...?

んん

うん

ん

ん



これは、ひょっとして
私は氣を失つて……

なんて、
ことなの……

くっ

アッ……

禁欲に生きるべき
僧侶である私が
快感に溺れて
失神するだなんて……

アッ……

アッ……

それも、大変な
戦いの場……

アッ……



なんという不覚…っ

んああっ!!

自分の置かれた状況を把握し、私は何とか脱出しようと試みました

しかしそんな私の動きに反応したのか、服の裏地が脈打ち、あのおぞましい感覚が再び…っ

あっ、あっ!!

しま…っ!!

びびっ
びびっ

びびっ
びびっ

びびっ

じわっ
じわっ

じわっ

びびっ



またっ、
そんな…っ!!

あああっ!!

あっ、
ああっ!!

ひよつとしたら
服への寄生をやめて
くれたのでは？なんて
思ったりしたのですが
現実にはそう
甘いはずありません

全身への愛撫が再開され
脱出のためとは程遠い
無軌道な動きで私が暴れ
身悶えていると…



背後から忍び寄っていた触手が
チヤツクのズリ下げられた
股下から胸元まで
一気に潜り込んできました

んひひひひひひ

んひひひひひひ

んひひひひひひ

んいつ!!

んひひひひひひ

んひひひひひひ

んひひひひひひ

んひひひひひひ

んひひひひひひ



やっ♡

あつ!?
あつ♡

アソコがつ♡
押し拵げられえつ♡

あぁあつ♡

あぁあつ♡

今までの触手と違い
それには吸盤のよう
なものが
びっしりと並んでいて

ぞし

ずんずん

ずんずん

びんびん

ずんずん

びんびん

ずんずん

グュー

びんびん



それらが思い切り
押しつけられ、吸い付き、
擦り上げられるのだから、
もう...たまりません

またいつて
しまいますううっ ♡

ふひっ ♡
っ ♡
っ ♡
っ ♡

くらっ ♡
っ ♡
っ ♡
っ ♡
っ ♡

当然二度氣をやつたくらいで責めが終わる筈ありません

自身の愛液と触手の粘液の混ざつたものを身体中に擦り付けられ股間をお腹のくびれを胸の谷間をしごかれながら...



あああ ああつ♡

ああつ♡

ああつ♡

絶望的な戦いが再開... いやむしろこれからは本番なのだとは私には痛感していました！



うあつ、
な、何をっ!!?

そ、そんな所を
じろじろ見るのは
やめて下さいっ!!

目なんてどこにあるのか
よく分からないのですが、
そいつが私のどるどるの...
わ割れ目を見つめていて
いうことは何故か
はつきりと分かりました

あっ!!?

散々私の身体で
吸盤つき触手をしごいた後
妖怪は四肢を持ち上げ私を
宙吊りにしてしまいました

がぼ

そしてチャックを
限界まで下ろすと
まじまじと...

私は僧侶
なんですよっ!!?



僧侶に破廉恥な
ことをしては…っ、
あっ、ああっ ♡

私は今一度説得を
してみました。が妖怪は
やはり聞く耳持たず…

もっとも、ちよつと
股間を弄られただけで
蕩けた声を出してしまう
女の説教など、
わすかの説得力も無かった
かもしれない…

あっ ♡

や、やめなさいっ ♡
人の話を…っ ♡

あああんっ ♡

やっ、あんっ ♡

MC MC

MC MC

ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ

MCW

MC
MC

MC



く...っ♡
この...っ!

いい加減に...っ

発情粘液も吸盤も無く、
動きもかなり単調です

これなら、我慢して
反撃に移れるかも
しれない...っ

でも今回の責めは
今までのものと比べ
刺激も弱いようでした

そんな考えが
私の脳裏によぎった
まさにその瞬間...

ぷる

ぷる

くちゅ

くちゅ

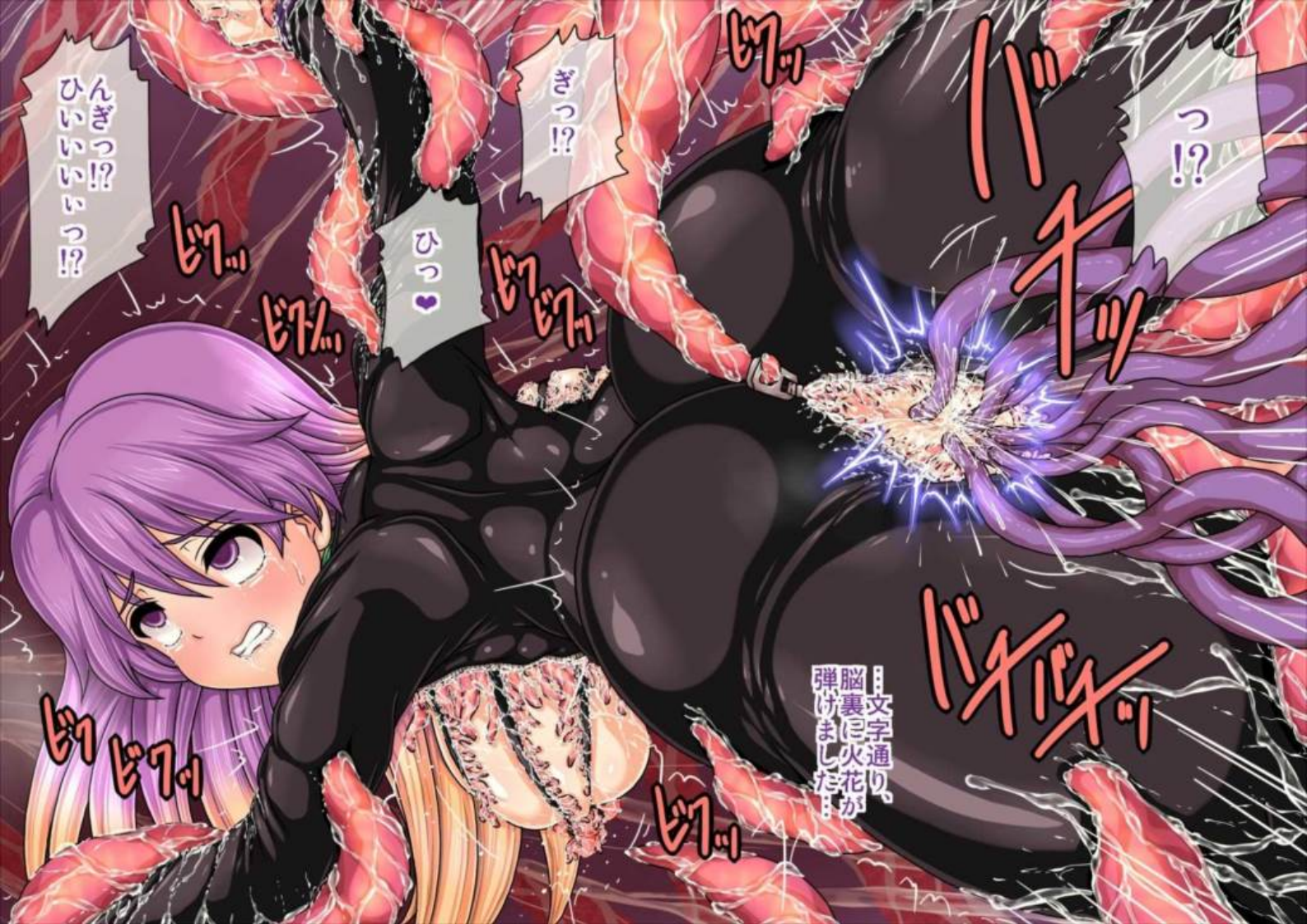
くちゅ

くちゅ

ぷる

ぷる

くちゅ



んぎっ!!
ひいひい!!

きっ!!

びびび

びびび

びびび

ひい

びびび

っ!!

バチ

バチ

バチ

びびび

びびび

文字通り、
脳裏に火花が
弾けました!!

バチバチ



あつ、あがああつ!!

非道な妖怪だとは
思っでいましがたが
よもや女性の股間に
電流を通すなんて...

鬼畜の所業
すぎます...

あ、ああああ
あああああ!!

こつ、これえつ!!

まさかこれつ、
電気が流されてる...

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ピキ

ピキ

ブビ

ピキ

ピキ

ピキ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



しかも……!!!

中に挿れちや
ダメええええっ!!!

な、中からっ!!!

あろうことかそのまま
電流触手が私の中へ……!!!

あっ!?

あああああ
ああああ
あああっ!!!

あああああっ!!!

快感神経を直接電流で
弄られる強すぎる刺激に
私は壊れた玩具のように
滅茶苦茶に
四肢を暴れさせました

もういつて
ますううっ!!!

い、いくいく
いくいくうっ!!!

ふぎらららっ!!!

ひうううううっ!!!





そして溢れた愛液でさらさら
電流の通りがよくなり
刺激が増してますます

あがあつ、
あああつ!!!

もうやめて
くださいっ!!!

んはあああ
あああつ!!!

もうやめてっ!!!

その責め苦は私が
気を失つても無理やり
衝撃で意識を取り戻させ
続けられ!!!

大小合わせると
絶頂が三桁にも
及ぼうかという頃
ようやくやめて
頂けました!!!

ガッ

ズッ

ズッ

ガッ

ピッ

ピッ

ピッ

ガッ

ピッ

ピッ

ピッ

ズッ

ガッ

ズッ

にっ、にっ!!

ドキッ

それも、一際醜悪な
触手を股間に伸ばされる
までのことでした

Ahっ

ムッ

Ahっ

Mhっ

じゅん

ムッ

まさかこれは、
妖怪の……ま、ま、
ま、魔羅……っ!!

まさか、
まさか……いつはっ、
僧侶である私を……

い、いけませんっ!!
それだけはっ!!



思えば性的な愛撫が
執ように繰り返される時点で
こいつの狙いに気付くべき
だったのかもしれない

修行中の僧侶の
は、初めてを
奪うなど…っ！

でも僧侶を無理やり、
お犯すなどっつ、私の常識の
埒外の発想すぎてそこまで
思い至らなかつたのです…

じたばた

あっ!?

め、冥府魔道に
堕ちますよっ!?

…そ、そこ
そんな
弄つちや…っ

ああっ♡

じたばた



勿論、挿れただけで
行為が終わる訳ありません

あっ!!

んはあっ!!

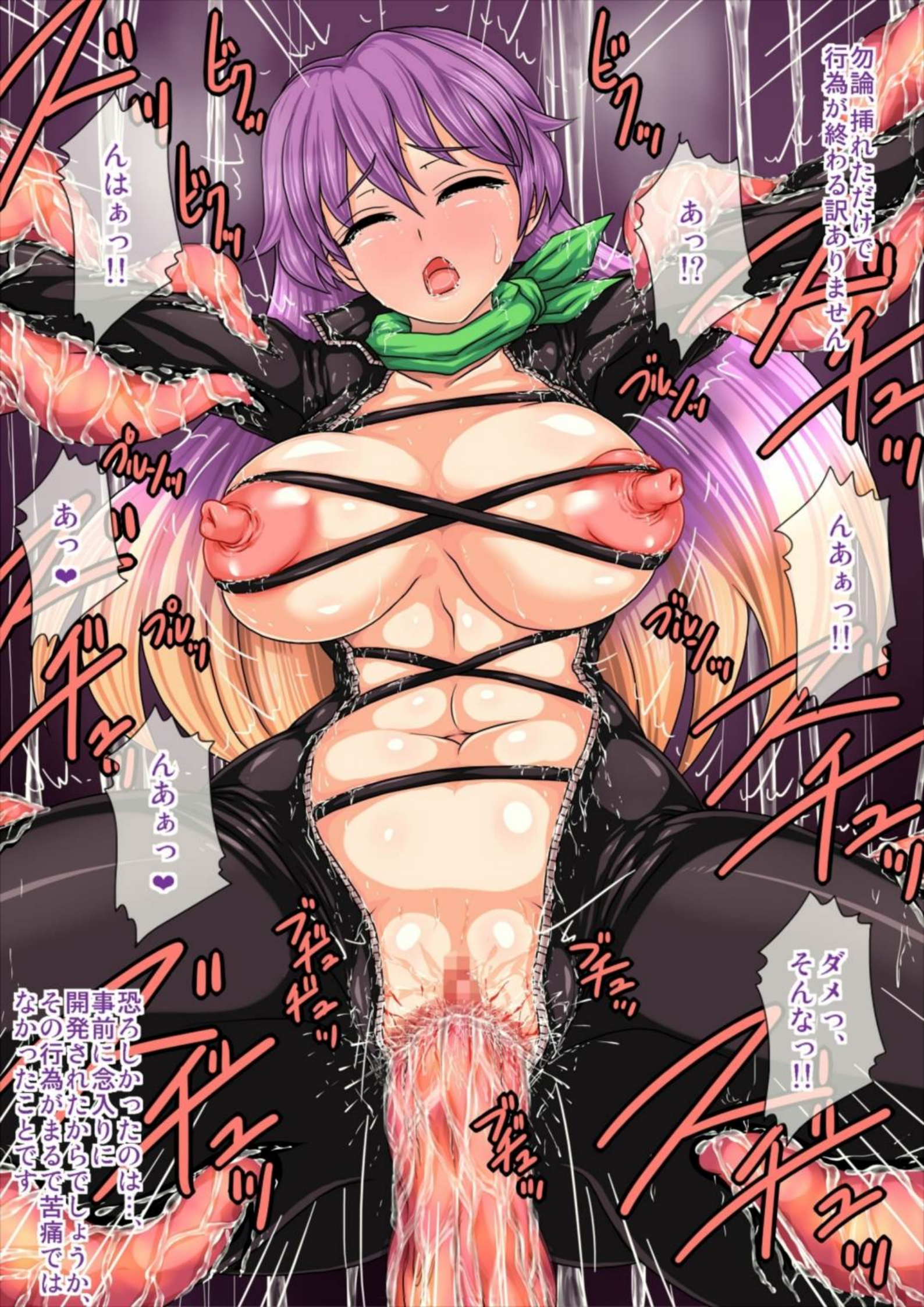
んああっ!!

あっ♡

んああっ♡

ダメっ、
そんなっ!!

恐るし、念入りには、
事前に入りに、
開発されたから、
その行為が、
なかつたこと、
で、
苦痛では、



圧迫される息苦しさや
生まれて初めて自身の中に
他者のモノが入る異物感
確かにありました！

んっ♡

こんなっ♡

うううっ♡

くうっ♡

ふううっ♡

しかし直前の電流責めと比べると、
それからは快感の前にあまりにも
あずかなものに感じられたのです

信仰に生きる者として、
こんな行為に快感を覚えては
いけないのにっ！！



でも我慢しようと思えば思うほど却つて意識してしまい
快楽が強くなるっ！！

ああっ♡

あああっ♡

！そうこうしている内に
触手の注挿運動が
激しさを増してきます

あっ!!?
あなた...っ!!?

もしかして...っ!!?

股間の膨らみ、
次第に熱を帯びてくる肉棒に
私には本能的に何が起こりよう
してはいるのかを察しました

ああっ♡

ゴッ...
ゴッ...
ゴッ...





だ、ダメっ!
それだけは...っ!

中にだけは
やめて
ください
っ!

お願いっ!
中にだけはっ!

そう懇願し、
私は必死で腰を振って
触手を振り払おうと
しました。が...



肉体的に穢されたことは
勿論なのですが、
妖怪に与えられた魔性の快楽を
法悦と感じてしまったことが
心の中で汚されたように
私はひどくショックでした！

ああ……

私が、そんな……

……あ、ああ……
何て、こと……

我に返った私は
自分が取り返しのつかない
行為に及んでしまったと
はつきりと自覚しました！

ムム

ゴウッ

ムムム

ムム

ドゥッ

ムム

ビキッ

ビキッ

ムム

ムム

でも、
いつまでも
くよくよしている
訳にはいきません

私の寺へっ、
どんな手段を使っても
連れていき、雑念が全て
無くなるまで修行させるっ！

そして犯した
罪の分だけ
善行を積んで
もらいますっ！

淫戒を破ってしまったこと、
そして何より、
もうそんな感傷はどうも
克服したと思っただけ
ひ一人の女として無理やり
犯されることのシロツクは
酷く大きなものでしたが！

くっ、わ、
分かりましたっ

あなたが、そ、
そういうつもりなら、
私は絶対にあなたを
改心させてみせますっ

今は、この妖怪を
懲らしめることが先決です！





か、覚悟して...
あっ♡

あああああっ♡

そうやって威勢よく
啖呵を切ったは
いいもの...

ああああんっ♡

四肢を拘束され、
女陰に二物を突っ込まれて、
それで一体どうやれば
反撃出来るのか！

私にはまるで展望は
ありませんでした！

しかも、それで
感じてしまっただけでは
尚更！

ああっ♡
やめっ♡

ふあっ♡

そんなっ♡
激しいっ♡

あああっ♡

私のアツコが中出しされた
直後で激しく敏感になっ
ていて、妖怪の剛直はまる
で元気でさつき以上の勢いで
私の奥を扶ってきます！っ





しかも…

ひっ!?

いふひいんいっい
♥

さつきまで活動を
休めていた裏地の触手が、
折り悪くまた
活発化してきたのです

完全に股間へと意識が
奪われていた私は、
全身を襲った激しい快感に
あっさりまた気を
やっつけてしまいます…

ML

ML ML

ML

ML

Gya

Gya

Gya

Gya

Gya

Gya

イイいっ
♥



そんな私が勝手に
イったことに腹を立てたのか、
股間の触手のビストンが
さらに激しさを増します

ふっ♡

そ、そんなにつ♡
突いては…っ♡

んっ、ふうっ♡

…だ、ダメっ♡

押し潰さんばかりの勢いで
最奥子宮回まで膣内を
抉りながら突き込まれっ、
大量の愛液と共に
媚肉をかき出されっっ

このままじゃっ

どんどん熱を帯びてくる
肉棒の再びの射精の予感に
私は何とか身をよじって
逃れようと思いますが...

んはあっ♡

あああああ
あああああ♡

あああっ♡

むしろ私が腰をひねったことが
呼び水となつたかのような
絶妙なタイミングで、
再度白濁が私の中と
脳裏を染め上げました！





ひっ、あっ!!?

どきん

まさか、今からこれら
全てが、私を...??

い、嫌...
やめて...っ

私の悪夢は
まさに始まった所
だったのです!!

私が自身の反応に
驚愕する暇もあればこそ...

妖怪は新たに
グロテスクな先端の
触手を何本もこちらに
伸ばしてきます

いやああ...っ!!

ブル

ブル

ブル

ブル

ブル

ア

ア

ア

ム



ああっ!!

あああっ!!

そのカリが幾重にも
重なったような先端は
恐ろしく能率的に
私の膣内を開拓しました

その凹凸に肉ヒタ
一枚一枚が絡み取られ
一枚挿しきれぬほどに
抜き挿しされることに
それがかき出され
押し込まれ...

な、中がっ♡
抉れ...っ!!

あああっ!!

ムム

ムム

はあ
はあ

ムム
ムム

ムム

ムム

ムム

ムム

ググ

ググ

ググ

いつしか私は、
自分が快感を覚えて
しまっているという
ことを
否定することすら
困難になっていまし
ました！

あ、あつ!?

ピストンの
上がつてつ!?

ああつ♡

だ、ダメですつ!
今出しては…っ!!

あああつ♡

こんな直前に蕩けてしまっ
ていては、
中出しのラストスパ
ートに
拒絶のため身をよじる
姿も、
尻を振ったかもし
れませ
ん！
見えなかつたかもし
れませ
ん！



そして何より
恐ろしいのは...

んひっ♡

ひっ...♡
イクイクっ♡

イぐうううっ♡

やつぱり...っ、私
中出しされることが
絶頂のスイツチみたいだ
されてしまっている...っ!!!

くううううんっ♡

私は、自分がどどん
いやらしい身体に作り
変えられていることを...
自覚せざるを
えませんでした...

ぞしぞし

ブルブル

ブル...

ブル...

ブル...

ブル...

ブル...

カッ

カッ

キーン

キーン

カッ

カッ



…あ、あああ…

あ…

射精そのものが終わっても、
余韻で身体が震えて抵抗らしい
抵抗はとも出来ません…

どの道、こんなにも太くて長い
触手を股間に挿入されては
わずかな身じるぎでも
激しく感じてしまいが
何も出来なかったでしょうが…

自分がこんなにもいやらしい、
快楽に弱い肉体だったなんて
知らなかった…

知りたく、
ありませんでした…

やああ…

ふん

ふん

ばあ、
ばあ、

ふん
ふん

ふん

あはは

あはは

あはは

ふん

ぎゅ

ぎゅ

ぎゅ

あはは



ひっ!?

ひびくひびく

放心状態の私を現実
に引き戻したのには
股間からの感激でし
た

いや、股間...と言うより
その内部と言った方が
正確でしょうか

ふっ、
膨らんで...っ!?

んいっっ♡

私の中、奥深くへ突っ込まれた
肉棒が無数の瘤を浮き上がらせ膨らみ、
膣内を上下左右圧迫し始めたのです

ビッ
ビッ

ビッ
ビッ

ビッ
ビッ

ビッ
ビッ

ミッ
ミッ

ミッ
ミッ

ビッ
ビッ

ビッ

そしてその、一切の隙間無く肉棒と私のアソコが密着した状態のままピストンが再開し...

あつ、あつ♡

ああ♡

あああ♡

触手の発情粘液と精液、そして私の本気汁の粘着性が混ざり合い、それはまるで肉棒と私の膣が一つに蕩けあつてしまつたかのよう...

ピストンに合わせて私のいやらしい肉が引きずり出され、押し潰され... こんなの、頭がおかしくなっちゃう...

凄すぎますうう♡

らめええ♡



もしかしたら…いえ、
きつと、これは魔性の快楽を
通じて私の精神が蝕まれ
調教されていった
結果なのだと思います

あ…ひい…♡

赤ちゃんの部屋が、
せーえきで
一杯にひい…♡

ザーメンで
破裂しちゃうう…♡

凄ひい…♡

この後は、何本もの触手と
時間の感覚が無くなるまで
ぶっ通じてまぐわり続け
へとへとに疲れ果てて
眠りに落ちました！

ひい…♡





この洞窟も最初は岩肌が露出していたのに、いつの間にかかいた手で埋め尽くされた。巨大な怪物の内臓のようになっています…

いけないっ、このままじゃあ…っ！

うっ、ここれっ、まさか…っ

行為を重ねる内、私は次第に妖怪がより強大に成長していることに気付きました

私の、魔力を吸って…っ!?

女性の体液を通じて、その力を吸収する妖怪の話は聞いたことがありますが、こいつがその…っ

ぎゅ

うっ

うっ

うっ

ぎゅ

ぎゅ



でも、そのことに
気付いても私は
一体どうしたらいい...

あああつ♡

あつ♡

だつ、ダメえつ♡

こんなことで
感じちやダメだつて、
そんなことは最初から
分かっているのですから...

んんん

んんん

くちゅ
くちゅ

くちゅ

くちゅ

くちゅ

んんん

んんん

んんん



い、陰核をっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

口の中、
そんな
転がしては…っ♡

ふううっ♡

意識を飛ばされるような
激しいセックスよりも
こっぴどい落ち着いた戯れ
自分の肉体的いやらしい
はつきり自覚してしまい
羞恥心が煽られます…っ

んううっ♡

ひ、人のおまんこで
遊んでは…っ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡

んふっ♡



それは、私が我慢
出来ずに溢れさせた
愛液を触手が吸る音

こいつはいつも私の痴態を
私自身に思い知らせるかのよう
に、
敢えて聞こえよがしに音を立てて
これを吸い取るのです...

恥ずかし、
すぎます...

私が気をやると、
しばらくして股間から
やや高いくぐもつた
水音が聞こえてきます...

ううう...っ

...

ううう...っ

...



私としても、されるがままに
ただ騙られ続けた訳ではありません

あっ!?

恐ろしいほどの快感に耐え、
触手の隙を、脱出のチャンス
をじつと待ち、好機をどらえた
ことも一回や二回はあったのです

し、しま...っ!?

ぐんぐん

ですがやはり、
度重なる凌辱で注意力が
散漫になっていて...

ぐんぐん

ぐんぐん



しかし太い肉棒で
散々開拓され
だらしなく拡がった
私のアソコは意に反して
すんなりそれらを
受け入れてしまいます

なんっ、でっ、
こんな...っ♡

なんんっ♡

ふっくっ♡

不安定な姿勢も相まってか
股間をほじられる感覚が
普段とまた違って、快感に
腰が砕けてしまっそう...

なんんっ♡



身体が自分の意志で動くうちに
何とが私の中から引きずり出さないと
ここまで逃げたのが元の末阿弥になる！

あっ!?

あああっ!?

そう思いまだ自由に動く
左手で触手を引き抜こうと
身をよじった瞬間
それは起こりました

膣を通した感覚でしか
分かりませんが、これ
中で膨らんでる...っ!?

でも、
これくらい
なら...っ!



あつ、あぁつ!?

あぁつ♡

何ですっ、これっ、
凄すぎますっ……っ♡

あぁあぁつ♡

今までの直線的な刺激とは
全く違ったその責めに
私の余裕は完全に
吹き飛んでしまいました

その激しい振動は
恥骨を伝わって
腰全体まで震わし
もう自分の力では
まともに立って
いることすら……っ



びっ、びっ!!

まっ、まさか
あなた...っ!!?

ま、待ってっ、
お願いっ!!

じよっ、冗談っ、
ですよねっ!!?

今そこまでっ、
されたら...っ!!

そして更に
追い打ちを
かけるようにに...

ギョッ、
ギョッ、
ギョッ

おにっ

ブル



あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ

あゝっ♡

あゝっ♡

…もう私の頭は
完全に真っ白でした

考えられることと言えは
この恐ろしいまでの
快楽責めから何とぞかして
逃れたいというその一点だけ

その考えも到底まとまらず、
結局出来ることは無茶苦茶に
身体を揺らし、暴れて
抵抗らしきものを
するくらいが精一杯

あゝあゝっ♡

ビッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ



でもそんなの敏感な所への振動の当たり方や角度を変えただけでむしろ快感は二層大きくっ

いつ、イぐっ

イぐイぐイぐっ

くうううううんっ

…結局私は脱出のことなど考える余裕も無いほど何度も何度も激しくイカされまくり

腰が完全に砕けて既に触手に無理やり立たされているという状態だった私は、拘束が解かれるとそのまま地面に突っ伏し

一歩も動けないまま元いた場所へと待たばかりでした

アッアッ

アッ

アッ

アッ

アッ

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク

ビク



もうご主人様には
逆らいません
からああっ♡

ああああっ♡

お許し
くださいいっ♡

それは私が屈服の宣誓を
するまで続きます…

勝手に逃げたり
などしてえっ♡

ああっ♡

も、申し訳
ありませんっ♡

そして連れ戻された
私を待つているのは当然
念入りなお仕置きです…

あっ、ああっ♡



ドキッ

あっ!!

...そうこうしている内に、今日の愛撫の時間はもう終わっていたようでした

生きる拘束着と化した私のスリツの股間が器用に開き、差し出された触手のおおんちゃんを受け入れようとしています

や、やめて...っ

んっ

わんわん

ごはあ

がわっ

ドロ...

ですが私自身は...既に快感の許容量は限界で、せめて少しは休ませてもらえないとこのままじゃ...

お願い、もう少し、でないと...



んほおおおつ♡

壊れちゃう...♡

んおつ♡

びびび

びびび

びびび

ぶっぶっ

びびび

びびび

ぶっぶっ
ぶっぶっ
びびび



イってしま
ますうっ♡
ふうううっ♡

いつの間にか癖のよう
調教され刷り込まれた
絶頂言葉を繰り返しま
私は股間の触手に全
意識が奪われていきま

頭が朦朧とし、
何も考えられなくなる
一方で...

肉棒が激しく出入りし、
擦りつけられ熱を帯び、
次第に膨らんでいくのだけは
はつきりと感じられて...

ふひっ♡

いぐっ♡
いぐっ♡

ひひっ♡



まるで、おまんこ以外の
自分が全て消えて
しまったみたい……♡

おほおほ
おほおほ ♡

同様に、もう完全に
癖となった中出しによる
絶頂で意識を快感で更に
上塗りされながら……

私は、自分が何故こんな
気持ちのいいことを拒絶
しようとしているのか……
次第に分からなくなっ
ていきました……

おほおほおほ ♡

んほっ ♡
おほおほ ♡

ビュッ

かたかた
かたかた

かたかた

かたかた
かたかた

ビュッ

かたかた

ビュッ

ビュッ

かたかた



肉体的にも精神的にも
追い詰められ
そうしなくでは私は本当に
壊れてしまっそうでした
が

ご主人様との激しい後は、
セックスが終わった後は、
私は恥も外間も捨て
余韻に浸りながら
体力の回復に努めます！

はあっ
はあっ
♡♡

はあっ、
はああ…っ♡

はああ…っ♡

あや

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

この妖怪は私が耐えようとすればするほど遊び道具を壊して激しく責めてゆくのです...

んあああつ♡

何とか私が息を整え自分を取り戻した。まさかそのタイミグを見計らったかのようには!

普段なら射精後しばらくは放置してくればはなやかに責めがはまりました...

ま、またああつ♡

あひああつ♡





あ、あつ♡
クリっ♡
そんなっ♡

あああつ♡

あああつ♡

今だけはあつ♡

だっ、ダメですっ♡
お願いっ♡

乳首と同様に
ソーセイジのように
勃起したクリトリスを
先端がブラシのように
なつた触手が
きしきしきしきしっ

散々開発された結果
触られるだけで
気が狂いそうなほど
気持ちのよい快楽器官と
なつてしまった肉豆！！

ソコをそんな乱暴に
しごかれたり
なんかしたら…っ♡

ガク

ガクガク

ガク

ガクガク

ガク

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ



い、いく...っ、
ひぎいっ!!?

む、胸までっ♡

そんなっ、
ダメっ♡

んんんんんん♡

んんんんんん♡
んんんんんん♡

んんんんんん♡
んんんんんん♡

んんんんんん♡
んんんんんん♡

んんん♡

んんん♡
んんん♡

んんん♡



こんなのつ、
耐えられる訳ない...っ

あああっ ♡

いくっ ♡

あああああっ ♡

んはあああっ ♡

ズンズン
ズンズン

ズンズン
ズンズン

ガッ

ガッガッ

ガッガッ

ガッ

ガッ

ガッガッ



股間から壊れた小水が蛇回のように溢れ出し止める術など今私に止めてくれる術などありません

MC

あっ♡

あまりにも与えられた刺激が強すぎて余韻だけで小刻みに私はいき続けていました...

じょぽぽぽ

じょぽ

と、止まらない...♡

...あああ...♡

MC

MC

MC

MC

MC

MC

でもこの日の妖怪は
本当に無慈悲でした...

ひひっ!?

な、何を...っ
まさか...っ

も、もう
これ以上は...っ

ちよぽぽぽ

フルフル...

限界に...っ!!!!

その矢継ぎ早の責めの
あまりの容赦の無さに
私は何か「仕上げ」
めいたものを
感じ...恐怖しました

身体っ、
本当につ!!





もつとも触手の
媚薬粘液を急所に直接
注射される快感の前に
そんなちっぽけな感情は
あっさりかき消されて
しまいました！

ただでさえ弄られると
気が狂いそうなのに、ど
気持が狂いそうなのに、ど
媚薬注射がないのにもう
正気を保つていられる
訳があるかもしれません...



ひひっ♡
ふひっ♡

カクカク
カク
ば、爆発、
しゅるっ♡

クリっ♡
クリが...♡

く、クリっ♡

プシッ
プシッ
プシッ

ポタ
ポタ
ポタ
ポタ



壊れるっ
壊れちやい
ますううっ

んひやあああつ

しょんなあつ

んはあああつ

らめええつ

私ばるれの回らないまま
更なる責めにもはや
体裁を整えることなど
思いも及ばず半狂乱に
悶えまくりました！

ムッ
ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

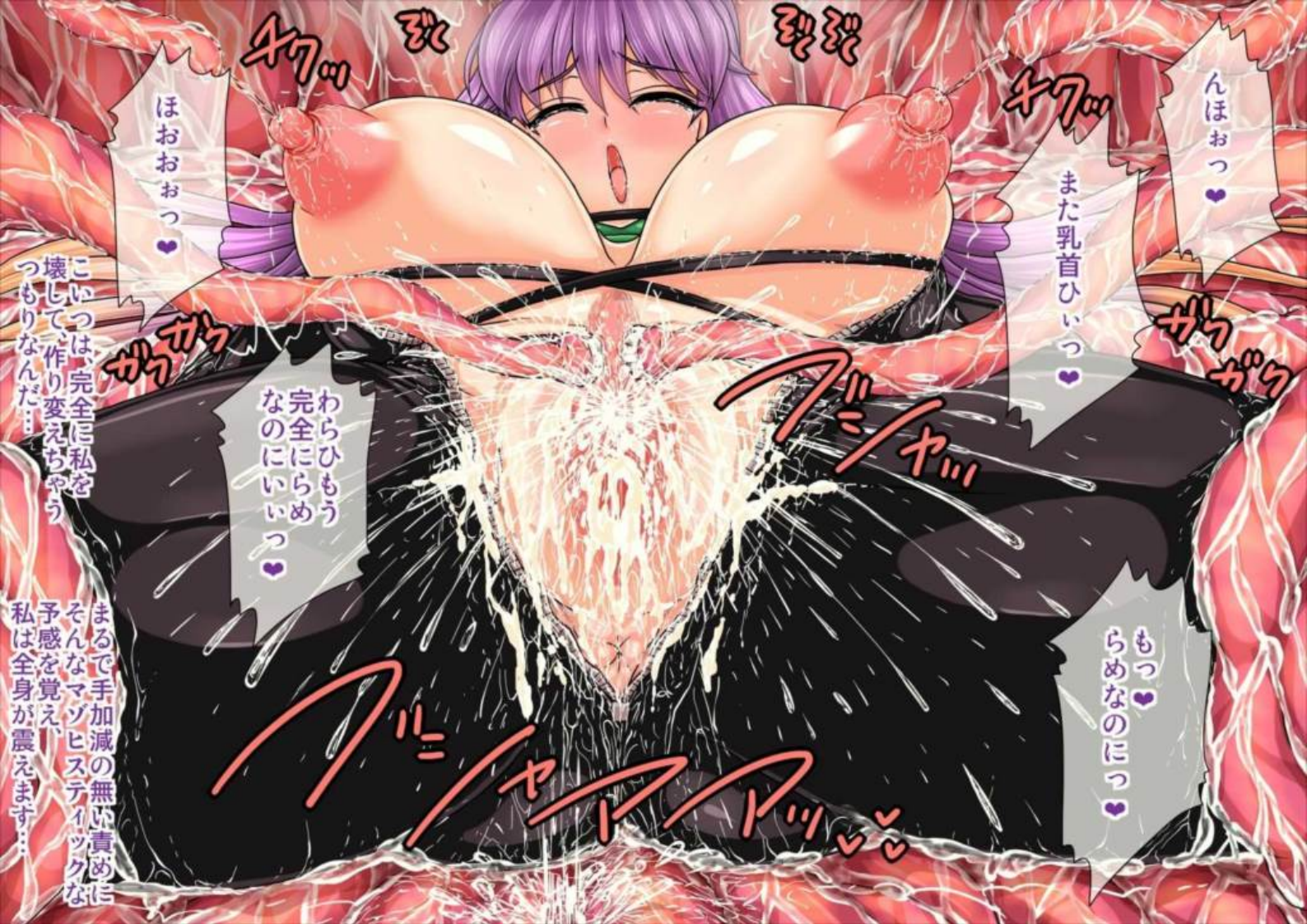
ゴッ
ゴッ
ゴッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ



ガク

私

ガク

ガク

ほおおおっ♡

んほおっ♡

また乳首ひいっ♡

こいつは完全に私を壊して作り変えちゃうつもりなんだ...

わらひもう完全にいらめうなのにいっ♡

アッアッ

ガクガク

アッアッ

もっ♡
らめなのにいっ♡

まるで手加減の無い責めにそんなマゾヒスティックな予感を覚え、私は全身が震えます...



そう、先ほど覚えた
仕上げる予感
的中していたのです

あつ、ああああつ♡

出てくるっ♡

あああああ
あああああ
あつ♡

マン肉抉って
何か出てくるううっ♡

今までの全ての凌辱は
私の肉体の開発は
全てこのためのもの……っ

Mmm
Mmm
Mmm

Mmm

Mmm

Mmm

Mmm



えっ、あっ!?

何、これは...っ!?

あっ♡

さっきまで、
確かに中には...っ!?

ま、まさかっ、
私の中で
産まれ...っ!?

その恐ろしい事実には
気付いた私は戦慄し...

それにっ、
この胸...っ!!

ああっ♡

ズルルル

ズルルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

ズルル

押し寄せる魔性の
出産の快楽に、簡単に理性を
吹き飛ばされました！

んぎっ♡
ひいひいっ♡

う、産まれるっ♡
中で産まれてるうっ♡

そんな沢山一度に
出てきちゃダメっ♡

おまんこ
壊れちゃううっ♡

確かに他種族の女を
利用して仲間を増やす
妖怪がいるというの
話だけは聞いたことが
ありません！

でもそれが、こんなに
恐ろしいことだったなんて、
そして自分がその犠牲者に
なるだなんて...
この瞬間まで私は夢にも
思っていなかったのです！



それからひたすら
本日に使われ続ける
繁殖にわたす
毎日でした...

あっ♡

ああっ♡

深いっ♡
激しいっ♡

ももっ♡

優しくして
くださって
ああっ♡

ムッ
ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ
ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ



はあ、はあ、
はあ、はあ……♡

あ……ご主人様の
ザーメンが一番奥で
暴れてるうう……♡

私の……魔力吸ってっ♡
卵子犯してっ♡

成長してええ……っ♡

ふあ♡





…あつ♡

そんなつ、
あつ♡

待ってっ♡

いきなりおっぱい
吸われたらっ♡

あつ♡

今イったばかりで
敏感なんですっ♡

あつ♡

ブル
ブル

ブル

ズルズル

ニャー♡

ブル
ブル

ズル

ブル
ブル

ズル

ズル

ズル

ズル

ぐはあ



あっ♡

あっ♡

また
イっちゃうい
ますううっ♡

あああああっ♡

ゴッ

ゴッ

ググ

ググ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ

ズ



中でも私の誇りを
大きく軋ませたのは、
産まれたばかりの
妖怪がすぐさま私を犯し、
種付けしてくることでした。

お尻から
降りなさいっ！
降りてっ！

やっ、やめなさいっ！

ダメっ!!

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

フリッ

フリッ

ガクッ



降り…っ、
んほおおっ♡

おっ、おっ♡

でも幾ら心でそう思っ
ていても、おちんち
んを挿れられてしま
うのを止められない
のです…っ

は、入って
くる…っ♡

自分が産んだ者に犯され
し、しかも孕まされるなど
そんな背徳的な行為…
相手が妖怪であつても断じて
許されることではありません

すこひ…っ♡

ドグ

ドグ
ドグ

ドグ

ブルブル

ドグ

ドグ

ドグ

ドグ

ドグ

ドグ



い、いけませんっ、
それだけは……っ♡

び、ピストンがつ、
早く……っ♡

……っ♡

くううっ♡

射精の予感に慌てて
振り落とそうと
お尻を振っても
そいつはがっちりと
私の腰を掴んで離さず……



熱いのが、
入って
くるう…っ♡

う、ううっ♡

ふうふううう
うううううう♡

結局客観的に見て
私は自分が産み落とされた異形に
パツクで突かれ、悶え尻を振る
浅ましすぎる淫乱女にしか
見えなかったと思います…

私の抵抗は無駄に終わり
大量に精子を中出しされ
その次に待っているのは
勿論…

ムッ♡

ムッ♡

フッ♡

ガッ♡



またあ...っ ♡

わらひっ、
自分が産んだ妖怪に
犯されて...っ ♡

...あ、ああ... ♡

そんな... ♡

あああ...っ ♡

ムッ
ムッ

ムッ
ムッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ
ゴッ



あああああつ♡

あひっ♡

産まれるっ♡
産まれるっ♡
産まれるっ♡

あつ♡

その無間地獄のような
快楽責めは私の精神を
恐ろしい勢いで
消耗させてゆきました

幾ら拒絶しても
私の意志など無視され
るくに抵抗もできず

犯され、産んで
また犯され

また産まれた触手は
成長し私に乗りかかると
無理なサイズになると、
逆に私をその柱のよう
巨大な肉の幹に乗せ下から
突くのを好みました！

押し潰され…っ♡

あああっ♡

あっ♡
ああっ♡

しっ、子宮がっ♡

勿論私のおまんこに
触手の男性器を
啜え込ませた上で…

私自身の体重で
大事な所が男根に
潰されそうになるも
両手両足を触手に
飲み込まれてるため
密着姿勢を変え
こどなどできません





ふっ、くっ♡
うううっ♡

んっ♡

んひっ♡

ひっ♡

何とか得意のバイクを
乗りこなす要領で
衝撃を和らげようと
するのですが！

：こどもも密着しては、
何をしても啜え込んだ肉棒に
股間を擦り付ける結果にしか
なりません！



んいっ♡

そっ、そん♡
ひっ♡

激しすぎ…っ♡
ひいっ♡

そんな私の健気な努力を
逃げ出すためのしつこい抵抗と
見てとったのでしようか！

更に激しさを増した上下運動で
おまんこに肉棒をより食い込まされ
挟まれほじられ私は年甲斐もなく
泣きそうになります…



あつ、嫌あつ
ダメえつ ♡

あつ、ああつ ♡

あつ ♡

あああつ ♡

おちんちんを咥え込んでの
いやらしいバイクシヨは
この意地悪な主催兼観客が
満足するまで終わりません

そしてその満足する時とは...



んおっ♡

ほおおおおっ♡
おおおおおお

おおおおっ♡

それはつまり、
中出しされる時
とゆうこと...っ♡

グッ

ムッ
ムッ
ムッ

ムッ
ムッ
ムッ

キムッ
キムッ

ムッ
ムッ
ムッ

ムッ

ムッ

ムッ



おっ、おごおっ ♡

もうお腹いっぱい
なのにひいっ ♡

ほおおっ ♡
おおおっ ♡

しゃっ、射精
止まらなひっ ♡

満足させても、
すぐにアンコールを
受けさせられることは
珍しいことではありません…

あああ ♡

あああ… ♡

…あ、
はあ、はあ
ああ…っ ♡

やっ、も、
もう、
止めてえ…っ ♡

私がより感じてしまおうよう
巧みに強弱を入れ替える
その肉の脈動に
私はただ悶え続けました…



それほどの状態に
陥っていても、
何故か逃げ出す
機会自体は頻繁に
訪れました

当然拘束から逃れても、
すぐに触手が連れ戻そうと
追ってくるのですが…

くっ、ううっ!!

ふっ♡

は、離れなさい…っ!!

最初の内、私はこれは
単にこの妖怪が油断
しきっているからだと思
っていました…

プル

プル
プル

プル

ねちゅん

ねちゅん

ねちゅん

プル

プル
プル

プル



あああつ♡

くっ、あああつ♡

だ、ダメっ♡
入っちゃ…っ♡

しかしそれは、
現実には全くの
間違いだったのです…

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ムッ

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ

あ、ああっ♡
ダメ、ダメっ♡

あ、あっ♡

そんなにかき混ぜては…っ♡

おまんこをこんな太い触手で蹴られていては逃げられるはずありません

何とか引き抜こうと努力しますが表面の粘液で手が滑り殆ど撫でさするだけにしかならず…

足腰にまともな力の入らない状態じゃ尚更です…



ガッ

ガッガッ

ガッガッ

ズリ

ズリ

ズリ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ぐちゃぐちゃ

ガッ

ガッガッ



いくううううっ ♡

んひひひひひ ♡

そんな抵抗、むしろ
触手を刺激して
喜ばせるだけだという
ことは明らかでした！

ムムム
ムムム

ムムム

ムムム
ムムム
ムムム

ガッ
ガッ

ブツッ

ブツッ

ビュッ

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ



…あ♡

また、ああ…♡

ああ、ああ…♡

ポテッ♡

ポテッ♡

カッ
カッ
カッ

カッ
カッ

カッ

カッ

そしてもう、
こうなってしまうたら
逃げることなど不可能です…

まともに歩くことすら困難な
私を悠々と触手が連れ戻し
肉の牢獄に繋ぎなおすのを
待つだけ…

あ、あ……♡

何度もそんなことを
繰り返して……私は
ようやく気づきました

妖怪は油断してではなく、
逃げ惑う私を騙り遊ぶため
敢えて拘束を解いているのだ……

私に残されていると見えた
脱出の希望は、掌の上で弄ぶ
ための餌にすぎなかったのだ……

あああ……♡

そのことに気付いた時

私は……絶望と、

マゾヒスティックな快感で

自分が塗り潰されていくのを

はつきりと感じました……

連れ戻されたら、
私に待つてくれるのは、
また延々と続く種付です。

ああっ♡

ふあっ♡

あっ♡

繰り返しの犯され
すつかり私を犯され
股間をほじられること
悦びをほじられること
なついでにしました…





んひいっつ ♡

噛んじや
ダメえつ ♡

乳首いっつ ♡

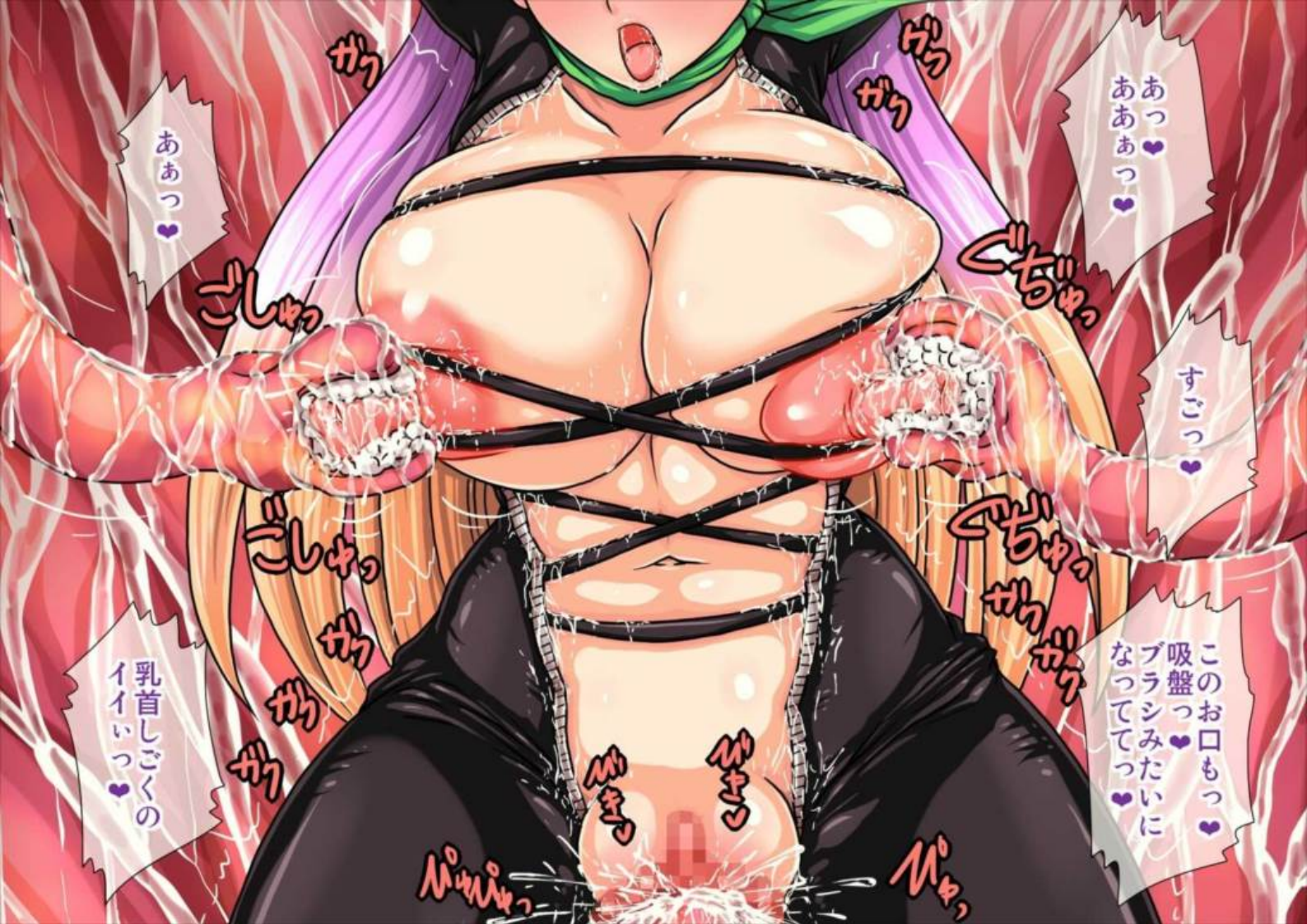
ぎゃあっ

ふひいっつ ♡

んひいっつ

んひいっつ

んひいっつ



ああっ♡

あっ♡
ああっ♡

すごっ♡

このお口もっ♡
吸盤っ♡
ブラシみたいになっ♡

乳首しごくの♡
イイっ♡

んんん♡

んんん♡

ごしゅっ

ごしゅっ

ごしゅっ

ごしゅっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

かっ

んんん♡

んんん♡

んんん♡

んんん♡



ひいっ♡
クリまでえっ♡

勃起したクリっ♡
そんなに
しごかれたらっ♡

いっ、いっ、
いくっ♡

ふきっ♡

いくっ♡

ニャッ

勃起した肉豆を
しごかれまくる、
私の墮落した肉体が
大好きな責めを
繰り返されても
我慢！

あああっ♡

ダメっ♡
ダメですっ♡

そんなっ♡

ふあっ♡
あああっ♡

イってる真っ最中の
子宮が無数の触手で
突かれまくっつも……っ





我慢...♡

いつ♡

いくっ、いくっ♡

ニャっ♡

ニャっ♡

あああああ♡

クッ♡

クッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

キッ♡

キッ♡

以前魔界に気が遠くなるような長い間封印された時も私は決してあきらめずこうして自由になれたのですから…

おほおおおっ♡

おっ、お腹っ♡

おおおっ♡

諦めず、耐え続けていければ今回も脱出の機会はいつか必ずや訪れるはずですよ…っ！

そんなザーメン注がれたら破裂しちゃいますぅうっ♡

んおおおおっ♡

どんなに辱められようとも、どんなに肉体を従順なメスに躡けられようとも、私は絶対に負けません…っ！！



…それから
しばらく後…

おお、白蓮様！

よくぞ御無事で！

皆さん、心配をおかけして
しまったようで
申し訳ありませんでした

あの悪どい妖怪は
私が無事退治しましたので
もう安心して大丈夫です

パツッ

パツッ



おお！
流石白蓮様だ！

(そ、それにしても
今日は一段と際どい
格好をしてらっしゃる...)

(お、オマンコ
見えそうだ...)

(住職様にそんなこと
思っちゃいけないだろうが、
あの身体ハメ回してえ...)

んっ♡

んんっ♡

ML

ML
ML



?
どうしました
白蓮様?

ブルッ

はっ

ブルッ

っいっいえっ

ブル

しゅ しゅ
しゅ しゅ

しゅ しゅ
しゅ しゅ

しゅ しゅ

しゅ しゅ

ブル

はっ

な、何でも...
ありませんっ

そ、そういう訳...
ですのてっ

女性の方々にも
安心して外を
出歩けると...っ、
お伝えください...っ

ブル

はい白蓮様、
ありがとうございます
ございます！

あつ♡
あつ♡
あつ♡

ダメっ、
ダメですっ♡

今そんなに
突かれたらっ♡

気付かれて
しまいますっ♡

ムッ

ムッ

ムッ

ふあつ♡

ムッ
ムッ

あつ♡

ズグッ
ズグッ

ズグッ

ムッ

…白蓮様？



ん…っ♡

♡♡♡♡

♡♡♡♡

申し訳
ありません
皆さんっ♡

ぷるぷる

ギョッ

ギョッ

ぷる

ズチュ

ズチュ

ズチュ

ぷるぷる

ぷる
ぷる

ちよつと…♡
急用を思い出し
ましたので…っ♡

ここで失礼させて
頂きますね…っ♡

は、はい
…っ？



ふあ♡
あ、あっ♡

こ、ここなら
大丈夫…っ♡

ふああっ♡

私はご主人様の
忠実な奴隷として
人里へと戻されて
いました！♡

あ、あっ♡
そんなに
突いちや…っ♡

どしどしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ

どしっ



んあっ♡

ああああんっ♡

凄いいいっ♡

中出しイイっ♡

私は、確かにどんな苦しみにも耐える自信はありました！

でも、こんな気持ちいいことばかり拒み続けるなんてそんなの無理に決まっています！っ♡



ふあああつ♡
あ、あああつ♡

産まれるっ♡
ご主人様がいつぱい♡

ああっ♡

こんな気持ちのいいことが
此の世の中にあつたなんて…♡

ガク
ガク
ガク

ガク
ガク

私何でも
しますからっ♡

もっと犯して
くださいっ♡

あひああああ♡

ゴクゴク♡

ゴク

私もう一生、
俗世と煩惱にまみれた
淫乱女で構いませんっ♡

気持ちいいこと
大好きですっ♡♡♡

